

小学校 国語

年

組

番

氏名

Ⅰ 太田さんの学級では、環境問題かんきょうについて調べ、スピーチでしようかいし合うことにしました。太田さんは、食品ロスについて調べ、メモをもとに、資料を画面に映うつしながらスピーチの練習をしています。同じテーマを選んだ友達にスピーチの練習を聞いてもらい、スピーチの様子や聞き手の様子を録画しました。同じ回は、太田さんの【スピーチメモ】【スピーチ】、へ資料1、2、3、4です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【スピーチメモ】

「はじめ」

○話題の提示

・食品ロスの説明へ資料1へ

「中」

○調べたこと

・すてられる野菜があるへ資料2へ

○試したこと

・野菜スープづくりへ資料3へ

・にんじんきんぴらづくりへ資料4へ

「終わり」

○まとめ

・自分の考え



【スピーチ】

みなさんは、食品ロスという言葉を知っていますか。〈資料1〉食品ロスとは、まだ食べられるのに捨てられる食品のことです。年間五百二十三万トンの食品が捨てられています。食品ロスの原因としては、食べ残しや期限切れ、食べられる部分はいきが挙げられます。

私は、食べられるのに捨てられる野菜の部分があることを初めて知りました。これはブロッコリーの写真です。〈資料2〉ブロッコリーは給食にもよく使われる野菜ですが、円で囲んだしんの部分は捨てられることが多いようです。調べると、ブロッコリーはどの部分も食べることができる野菜だと分かりました。捨てられる野菜をおいしく食べる方法を知りたいと思いませんか。

捨てられる野菜をへらすために、自分で試したことをしようかいたします。〈資料3〉一つ目は、野菜スープです。ブロッコリーのかたい皮をむき、火が通りやすいように短ざく切りにして、ほかの野菜といっしょにします。しんの部分はしやしきしきした歯ごたえでした。

〈資料4〉二つ目は、にんじんの皮には栄養がふくまれています。皮をよく洗い、千切りにしてはたらかがあるそうです。

ウェブサイトには、ほかにもあげる、むすなど工夫して調理するレシピがたくさんあります。調理方法を工夫して食べることで、捨てられる野菜の量を減らすことができますと考えます。ぜひ作ってみてください。みなで、食品ロスを減らしていきたいませんか。



太田さん

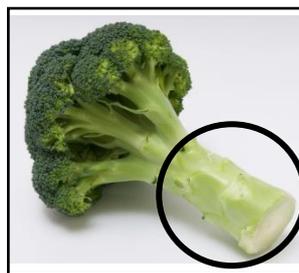
〈資料4〉



〈資料3〉



〈資料2〉



〈資料1〉

【食品ロス】

食べられるのに
捨てられてしまう食品

一 太田さんは、すてられる野菜を減らす方法を伝えるために、どのような構成で話していますか。最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 事実と意見を関連付けて、「はじめ」で問題とそれに対する自分の意見の両方を話している。
- 2 事実と意見を区別して、「中」で体験したこと、「終わり」で自分の意見を話している。
- 3 感想を印象付けられるように、「はじめ」と「終わり」で自分の感想を話している。
- 4 事実と感想とを区別して、「中」で調べたこと、「終わり」で自分の感想を話している。

二 太田さんが、「スピーチ」で、「資料1」を使った理由の説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 引用した数値を示すことで、聞き手に納得なっとくしてもらうため。
- 2 自分の疑問点ぎもんを示すことで、聞き手にいっしょに考えてもらうため。
- 3 大事な言葉の意味を示すことで、聞き手に正確に理解してもらうため。
- 4 スピーチでは話さないことを示すことで、聞き手に新たな興味をもってもらうため。

三 太田さんは録画した【スピーチ】と揭示物【話し方のヒント】を見て、話し方を見直しています。次の【太田さんが考えた改善点】について、あなたが太田さんなら、【スピーチ】の [] をどのように話しますか。 [A] 、 [B] に入る内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。

【話し方のヒント】

| | |
|------|------------------------|
| 速さ | 速く ゆっくりと |
| 強さ | 強く やさしく |
| 大きさ | 大きく 小さく |
| 声の調子 | 最後の言葉を上げる 最後の言葉を下げる |
| 間を取る | |

【太田さんが考えた改善点】

ずっと同じ調子で話していたから、【話し方のヒント】を参考に話し方の工夫とその目的を考えたいよ。
私が一番伝えたい意見を、工夫して話したいな。
「みんなで、食品ロスを減らしていきたいませんか。」のところを、

聞き手に [A] ために、 [B] ことにしよう。



〈条件〉

- 書き出しの言葉に続けて、 [A] に工夫して話す目的、 [B] に話し方の工夫を書くこと。
- [A] と [B] に関連があること。

聞き手に [A] ために、 [B] ことにしよう。

小学校 国語 解答用紙

年

組

番

氏名

一

二

三

聞き手に

A

ために、

B

ことごとく。

小学校 国語 解答

| |
|----|
| 年 |
| 組 |
| 番 |
| 氏名 |

一

2

二

3

三

聞き手に

A 共感してもらおう

(例)

ために、

B 最後の言葉を上げて話す

ことにしよう。

- ① 書き出しの言葉に続けてAに工夫して話す目的、Bに話し方の工夫を書いている。
 - ② AとBに関連がある。
- 右の①、②の条件を満たすものであれば可。

例
・(聞き手に) 自分も試そうという思いをもってもらおう(ために、) 強く話す(ことにしよう。)

〈小学校 国語 解説〉

設問 1-1

1 解説

趣旨

話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考えることができるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと

イ 話の内容が明確になるように、事実と感想、意見とを区別するなど、話の構成を考えること。

解答類型

| 問題番号 | 解答類型 | 正答 |
|------|-------------|----|
| 1-1 | 1 と解答しているもの | |
| | 2 と解答しているもの | ◎ |
| | 3 と解答しているもの | |
| | 4 と解答しているもの | |
| | 上記以外の解答 | |
| | 無解答 | |

2 学習指導に当たって

○ 話の内容を明確に伝えるために、構成を工夫する

自分の考えや伝えたいことを話すスピーチでは、自分の立場や結論等が明確になるように、話の内容を構成することが大切である。その際、話の種類や特徴を意識したり、目的に応じて事実と感想、意見とを区別したりするなどして話の構成を考えることが求められる。

学習指導に当たっては、「なぜ、このようにしたのか」「このような構成にするよさは何か」等、話の構成の効果について考えたことを交流する場面を設定することなどが考えられる。ここでは、本問を活用して、話の内容を明確に伝えるために構成を工夫する学習活動の例を次に示す。

本問を使った学習活動例

「紹介するスピーチの構成を考える」



話の内容が明確になるように、事実と意見とを区別してスピーチの構成を考えましょう。



村本さん

まず一番伝えたいことをはっきりさせ、次に、事実と意見とを区別してメモを並べ替え、構成を考えよう。



太田さん

私は、調理を工夫することで、すてられる野菜をへらしたいということを一番伝えたいな。
メモの「調理の工夫をしてすてる野菜をへらしたい」が意見で、それ以外は事実だよ。



中川さん

事実と意見が区別できたね。太田さんが一番伝えたい「調理を工夫してすてる野菜をへらしたい」という意見は、[はじめ][中][終わり]のどこで話すの？



太田さん

意見が一番大事にしたいから、スピーチのまとめになるように[終わり]に話したいな。



村本さん

最後に一番伝えたい意見を話すのは、いいと思うよ。「ブロッコリーのしんを使って野菜スープづくりをした」は、太田さんが体験したことだよな。体験したことと一番伝えたい意見とを区別することで、聞き手が理解しやすくなりそう。



太田さん

体験したことを伝えることで、聞き手が「自分にもできそう。やってみよう。」と思ってくれたらうれしいな。[中]で体験したことを詳しく話すことにするよ。事実と意見とを区別して話すことで、聞き手に私の考えが伝わるといいな。

【太田さんが伝えたいことを書いたふせんメモ】

| | | | | |
|-----------------------------|---------------------------|-------------|------------------------|----------------------|
| ○ブロッコリーのかたい皮をむき、短く切りにして、にた。 | ○ブロッコリーのしんを使って野菜スープづくりをした | ○すてられる野菜がある | ○年間五百二十三万トンの食品がすてられている | ○調理の工夫をしてすてる野菜をへらしたい |
| ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ |
| 事実 | 事実 | 事実 | 事実 | 意見 |

みんなと話したら構成がすっきりしたな。[はじめ]に食品ロスの説明をして、[中]で体験したこと[終わり]で意見を話そう。



太田さん

【太田さんが話し合い後に並べ替えたふせんメモ】

| | | | | | | | |
|----------------------|-----|-----------------------------|---------------------------|-------------|---|------------------------|-----|
| ○調理の工夫をしてすてる野菜をへらしたい | 終わり | ○ブロッコリーのかたい皮をむき、短く切りにして、にた。 | ○ブロッコリーのしんを使って野菜スープづくりをした | ○すてられる野菜がある | 中 | ○年間五百二十三万トンの食品がすてられている | はじめ |
|----------------------|-----|-----------------------------|---------------------------|-------------|---|------------------------|-----|

「なぜ、このようにしたのか」「このような構成にするよさは何か」等、話の構成の効果について考えたことを交流する場面を設定すると効果的です。

設問 1 二

1 解説

趣旨

資料を用いた目的を理解することができかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第5学年及び第6学年〕思考力、判断力、表現力等 A 話すこと・聞くこと
ウ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること。

解答類型

| 問題番号 | 解答類型 | | 正答 |
|------|------|-------------|----|
| 1 | 二 | 1 と解答しているもの | |
| | | 2 と解答しているもの | |
| | | 3 と解答しているもの | ◎ |
| | | 4 と解答しているもの | |
| | | 上記以外の解答 | |
| | | 無解答 | |

2 学習指導に当たって

○ 自分の考えが伝わるように資料を活用する

「資料を活用する」とは、音声言語だけでは理解しにくかったり、誤解を招きそうだったりする場合等に、資料を使いながら話すことである。その際、聞き手の立場に立った上で、話す内容を見直すとともに、目的に応じて、どのような資料を準備し、どのように使うかということを確認にすることが大切である。

資料を用いる目的は、説明を補足すること、伝えたいことを強調すること、聞き手に正確に理解してもらうことや一緒に考えてもらうこと、新たな興味をもってもらうこと等が考えられる。

実際に用いる資料としては、必要な文言や数値等の引用や実物、画像や映像等の使用、図解したものや重要な語句の定義付け等の明示が挙げられる。その際、目的や相手、状況等を踏まえ、話す内容と資料の整合、適切な時間や機会での資料の提示の仕方や量等にも注意する必要がある。

実際の授業場面では、情報収集の際に集めた資料をすべて使おうとする児童の姿も見られる。そのような際には、自分の伝えたいことを伝えるために必要な資料は何かを、目的や相手、状況に応じて取捨選択できるように指導していくことが大切である。

設問 1三

1 解説

趣旨

言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して、話し方を工夫できるかどうかをみる。

■学習指導要領における内容

〔第3学年及び第4学年〕知識及び技能

イ 相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すこと。

〔第3学年及び第4学年〕思考力・判断力・表現力等 A 話すこと・聞くこと

ウ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。

解答類型

| 問題番号 | 解答類型 | 正答 |
|--------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
| 1 三 | (正答の条件) 次の条件を満たして解答している。 ① 書き出しの言葉に続けてAに工夫して話す目的、Bに話し方の工夫を書いている。 ② AとBに関連があること。 | |
| | (正答例) ・ (聞き手に) 共感してもらう (ために、) 最後の言葉を上げて話す (ことにしよう。) ・ (聞き手に) 自分も試そうという思いをもってもら (ために、) 強く話す (ことにしよう。) *教師判定 | |
| | 条件①、条件②を満たして解答しているもの | ◎ |
| | 条件①は満たしているが、条件②は満たしていないもの (例) ・ (聞き手に) 理解してもらう (ために、) 強く話す (ことにしよう。) | |
| | 条件②は満たしているが、条件①は満たしていないもの (例) ・ (聞き手に) 考えてもらう (ために、) 質問する (ことにしよう。) ・ (聞き手に) 聞いてもらう (ために、) ゆっくりと話す (ことにしよう。) | |
| | 上記以外の解答 | |
| | 無解答 | |

2 学習指導に当たって

○ 言葉の抑揚や強弱、間の取り方等に注意して話し方を工夫する

話す際に、言葉の抑揚、強調、間の取り方等の話し方に注意することを理解し、それらを適切に使うことができるようにすることが大切である。また、目的を意識し、話し方を工夫できるように

することが重要である。

指導に当たっては、話す内容に応じて、声の上げ下げに注意したり、特定の語や表現の一部を他よりも強調したりして、話の内容が相手に伝わるようにすることや伝えたい内容を聞き手に理解してもらうために間を取るなど、話の内容が相手に伝わる話し方で話すよう指導するとともに、様々な場面で話すことを通して、繰り返し表現の工夫を行う場を設けることが有効である。また、自分や友達の発表の様子を録画し、観点に沿って振り返るなど、ICT機器を活用することも有効である。